

長畝ふるさと通信

【2010年12月号】

【冬の農作業】

■ 無農薬栽培・冬水たんぼ



無農薬栽培は平成13年からはじめました。最近は、12月に畦塗りをして水を張り、代かきまで終わらせています。これを「冬水たんぼ」と呼んでいます。たっぷりと水を張った田んぼには、冬の間に沢山の生きものたちが活動をはじめます。なかでもイトミミズは田面に「トロトロ層」をつくって、春の抑草効果を高めてくれます。



■ 春に向けての準備作業



ダムからの用水はファームポンドと呼ばれる貯水池に一旦貯め込まれ、ここから田んぼへと配水されていきます。冬になるとファームポンドの水は抜いてしまいましたが、そこには大量の泥が堆積しています。そこでこの様に、泥のかき出し作業を2日間かけて行っています。寒風吹きささむ中での辛い仕事です。

■ 打ち豆のできるまで・・・長畝生産組合では平成11年から青豆「岩手みどり」を栽培して打ち豆を作っています。ここでは打ち豆の出来るまでを紹介します。



① まずは豆を熱湯に浸けて柔らかくします。



② 圧ペン機にかけて、ぺちゃんこにつぶします。昔は子供の夜仕事として、小槌で一粒ずつつぶしたそう。



③ 乾燥機に一晩かけて、豆を乾燥させます。

④ 一袋ずつ計量して、袋に詰めます。全て手作業です。



⑤ 完成！年間約4000袋も売れるうちの人気商品です。食べ方はお味噌汁の具や、「アラメ」という海草と一緒に甘辛く炒め煮にして食べるのがポピュラーな食べ方です。天ぷらなどもいけます。

【設立30周年記念式典】



12月4日、法人設立30周年の記念式典を県農業普及指導センターやJAなど関係機関をお招きして開催しました。

記念講演では佐渡農業普及指導センターの本間所長から「佐渡農業の振興と長畝生産組合への期待」と題してお話を頂きました。30年前と現在の佐渡農業を比較して、その移り変わりと今後の方向性についてわかりやすく説明していただきました。

<30年前と現在の数字で比較する佐渡農業>

人口 85,000人 → 62,000人(23,000人も減りました)

水田面積 9,000ha → 6,000ha(1,000haも耕作放棄地ができました)

農家数 11,600戸、17,000人 → 7,100戸、8,500人(半減しました)

まさに30年前は佐渡は農業で成り立った島でした。30年たった今、農家の平均年齢は68.2才。そのうち70%が65才以上だそうです。その中であって長畝生産組合は30年前の耕地をほぼそのままに維持しています。これは組織化の大きな成果でしょう。

「常に先頭を走ってきた長畝だからこそ、これからも前を見て…」本間センター長から激励のお言葉を頂いて身の引き締まる思いでした。

式典後の祝賀会では思い思いに30年の思い出を語り合いながら、カ一杯お酒を酌み交わしました。これが我が集落の良いところ、活力源となっています。

これまでの30年はしっかりとした生産基盤を諸先輩方がつくってくれました。これからの30年は佐渡の農業を背負って、未来へつながる新しい農業基盤をつくっていきたいと思っています。



- お祝いに組合員全戸にふるまわれた赤飯は、「朱鷺認証米のこがねもち米」と「トキあかり」という名の小豆、そして集落で採れた栗をつかってかあちゃんたちがつくりました。まさにオンリーワンの味でした！

みなさま、良いお年をお迎え下さい。来年もよろしくお願いたします。

